

# 第50回全国豆類経営改善共励会の結果について

(公財)日本豆類協会

令和3年産の豆類生産で、特に経営改善の面から先進的で他の範となる豆類生産農家及び生産集団を表彰する第50回全国豆類経営改善共励会（主催：全国農業協同組合中央会、全国新聞情報農業協同組合連合会）の全国審査が書面にて厳正に実施され、農林水産大臣賞など計8点の受賞者・団体が決定いたしました。

ここでは、応募の状況と受賞者の概要を報告します。

## 1. 応募者と全国審査会の状況

第50回全国豆類経営改善共励会への参加点数は90点で、内訳は大豆家族経営の部24点、大豆集団の部36点、小豆・いんげん・落花生等の部に30点でした。

都道府県、ブロックの審査を経て、全国審査委員会が開催されました。同審査委員会は、國分牧衛審査委員長ほか8名がオンライン形式で出席、厳正なる審査を実施し、農林水産大臣賞をはじめ、各賞が決定しました。なお、小豆・いんげん・落花生等の部への全国審査委員会応募はありませんでした。

受賞者は、いずれも高収量・高品質を実現されながらコスト抑制も達成されており、その技術・経営内容は他の模範となると高く評価されました。

## 2. 表彰受賞者

### ①農林水産大臣賞

（大豆家族経営の部）

野呂修聖（青森県つがる市）

（大豆集団の部）

農事組合法人ふくどみ（島根県出雲市）

### ②農林水産農産局長賞

（大豆家族経営の部）

渡辺和弘 美幸（茨城県筑西市）

(大豆集団の部)

農事組合法人上久保営農組合 (福岡県京都郡みやこ町)

③全国農業協同組合中央会会長賞

(大豆集団の部)

農事組合法人ビーンズ本楯 (山形県酒田市)

④全国農業協同組合連合会会長賞

(大豆集団の部)

株式会社あぐり一石 (石川県白山市)

⑤日本農業新聞会長賞

(大豆家族経営の部)

江川和義 (佐賀県佐賀市)

⑥日本豆類協会理事長賞

(大豆家族経営の部)

倉田久司 (石川県白山市)

● 3. 農林水産大臣賞(大豆集団の部)：野呂修聖氏の経営概要 ●

野呂氏は、平成9年に就農し、平成19年に経営移譲を受け、水稲9ha、大豆6haから農業経営を開始されました。就農当初から大豆を経営の柱に位置づけ、大型機械の導入等により経営面積を拡大し、現在は水稲・大豆それぞれ約12ha、ブロッコリー70aをブロックローテーションを組みながら栽培されています。大豆の作付け品種は「おおすず」を中心に、青大豆の契約栽培も行われているとのこと。

当該地域では大豆の多くは転作田に作付けされていることから、もみ殻暗渠等の排水施設の点検・修復を欠かさず行い、突然の集中豪雨等による余分な水分を短期間で排水出来るようなほ場作りに力を入れておられます。



#### 4. 農林水産大臣賞(大豆家族経営の部)：農事組合法人ふくどみの経営概要

ふくどみは、平成22年に農事組合法人として立ち上げられ、今日に至っています。令和3年は水稲16.4ha、二条大麦15.6ha、小豆2.0ha、大豆13.6haを栽培し、耕地利用率144%を達成されておられます。

石灰窒素の深層施肥、弾丸暗渠の施工、自動操舵トラクターによる高精度播種等により、経費削減と収量増大を図られており、こうした取組の結果、令和3年の大豆の10a当たり収量は228kg、上位等級割合は90%以上でした。



#### 5. 表彰式

第50回全国豆類経営改善共励会の表彰式についても、昨年と同様に関係者が一堂に会して行うのではなく、7月中旬にかけて各地域や受賞者の都合に応じて、それぞれ地方農政局、県JA中央会、役場等において各賞の授与が行われました。

なお、第50回全国豆類経営改善共励会の結果については、6月27日の日本農業新聞に掲載され、広く関係者に周知されました。